

お店のプロフィール

- 創業 明治15年8月
(株)エビスヤ薬局の支店「エビスヤ薬局中央店」
として昭和56年12月開局
- 所在地 山形県酒田市中町
- 売り場面積 25坪(うち3坪は調剤室)
- 休日 日曜・祝祭日
- 営業時間 朝9時から夜6時まで
- 店舗数 1店(本店は本年5月に統合、支店の瑞穂は2
年前に独立)
- 1日平均来店客数 約40人(うち漢方相談、漢方OTC
は約25人)
- 客層 30～60代女性を中心に幅広く
- 売上構成 漢方相談が6割、健康補助食品などが2割、
処方箋2割
- 漢方相談の傾向 不妊症が3割、残りは婦人疾患一般
と老人性疾患(不眠、耳鳴り、夜間頻
尿、痛みなど)と生活習慣病
- 売れ筋商品 天王補心丸、鹿茸大補湯、冠脉通塞丸、
ケアリプラ、90包全般



▲店頭



◀和のイメージをモチーフにした店内



◀お店独自の工夫をこらして演出



▶男性科コーナー

今月のポイント

① 子宝相談に 取り組むきっかけ

専門の診療科目の無い「男性科」を創設

② 不妊症増加の背景

現代女性の着床率が低いワケ。長期にわたっての排卵誘発剤の使用や夜型生活への変化、食生活の洋風化などが背景に

③ 不妊症治療の ポイント1

長年の治療によって発生した証を、虚実寒熱を基本に弁証論治のもとに処方を決定する

④ 不妊症治療の ポイント2

不妊の原因をわかりやすく説明して、「私でも妊娠できる」と自信をつけさせる

⑤ 不妊症治療の ポイント3

治療の目安は約半年。前半3カ月は避妊期間にあて母体づくり

漢方療法推進会情報誌

Vol.26

編集・制作 Bクリエイティブ
発行 漢方療法推進会事務局
発行日 2007年10月1日



やけん通信

優良店訪問 第22回

(株)エビスヤ薬局
エビスヤ漢方薬局

山形県酒田市中町

小池 佳正先生



地域の医療チームの一員という意識で、漢方の専門性を発揮していきたい

創業は明治15年。130年という歴史を持つエビスヤ漢方薬局様。曾祖父から数えて4代目の当主にあたる小池佳正先生は、大学を卒業後、すぐに1軒の店を任されることになった。

「学生時代から父の背中を見ながら相談薬局としてのノウハウを身につけてきましたが、いきなり1軒の店を任されました。そういう私の支えとなったのは、東北地区を中心とした推進会の先生方でした」と小池先生は当時を振り返る。

「父が鐘薬会、推進会の要職にあったこともあり、様々な側面からアドバイスをいただきました。ワタナベ杏雲堂薬局(いわき市)の故・渡邊昌幸先生からは、1つの処方を徹底的に使用して自分のものとする実践の大切さを、銀座ペンギン薬局(東京)の菅原嘉子先生からは患者さんの痛みを親身に感じるカウンセリングの方法を、油座神美堂(いわき市)の油座功先生からは弁証とともに方剤学を身につけることの重要性を、第一薬局(盛岡市)の畑澤博巳先生からは医薬連携の大切さを、塩釜芍薬堂(塩釜市)の佐藤一臣先生からは組織の重要性を学びました」

昭和56年に(株)エビスヤ薬局の支店、「エビスヤ薬局中央店」

を開局。「8年前の県立病院の100%面分業から始まり、その翌年には市立病院も続きました。4年前に『エビスヤ漢方薬局』と名称変更したのは、父の漢方に対する熱意に応えることと、長年の実績から自信がついたこと。推進会の諸先生方のアドバイスを活かしました」と小池先生。

漢方相談とともに面分業への対応を並行して行っていたが、分業から2年ほど経ち調剤も落ち着いてきたので、調剤は午前中に、午後から漢方相談という業務の「すみ分け」ができていくそう。

「漢方と調剤を行っているお陰で、地域のドクターとも交流いただいています。その関係で、開業医さんから『感染症の後の寝汗、乾いた咳が止まらない、微熱が治らない』など西洋医学では対応できない『虚』になっている患者さんをよくご紹介いただきます。緑内障で安定剤や睡眠薬が、前立腺肥大で抗コリン剤が服用できないアレルギーの患者さんには積極的に漢方薬で使用する処方を紹介して喜ばれています。大切なのは、患者さんのために何ができるかということです。地域の医療チームの一員という意識で専門性を発揮し、地域に貢献できる漢方薬局を目指していきたいと考えています」



▲店頭

今月のテーマ 子宝相談(鹿茸大補湯、天王補心丸を中心に)

天王補心丸
〔希望小売価格〕
720丸 7,140円(税込み)
鹿茸大補湯
〔希望小売価格〕
300錠 19,950円(税込み)
ケアリプラ
〔希望小売価格〕
30袋 7,140円(税込み)

